

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

第3回目 2月下旬 10:00~10:30

康保会保育園

1. 活動のテーマ

〈テーマ〉

- ・合奏を通して、友だちと楽器を奏でる楽しさを感じよう
- ・異年齢児の前で発表をし、音への興味を深め合おう

〈テーマの設定理由〉

- ・周囲と一緒にテンポ・気持ちを合わせる活動を経験する。
- ・発表を通して、達成感を共感し合う。

2. 活動スケジュール

令和8年2月5日～2月25日 5歳児:29名

- ・個々の楽器遊びから、合奏へ繋げることで様々な音色が合わさる楽しさを味わう。
- ・合奏を発表する場を設け、奏でる楽しさや観客(異年齢児)に聴いてもらう緊張感・歓喜の気持ちを共感し合う。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

3Fホール

- ・小太鼓 ・大太鼓 ・キーボード ・グロッケン ・木琴 ・鍵盤ハーモニカ ・シンバル

4. 探求活動の実践

〈活動の内容〉

- ・自由遊びの中で楽器に触れるコーナーを作り、子どもたちから意欲的に参加する環境を整える。
- ・年少・年中児・・・発表の場での、異年齢児の表情や言葉を観察する。
- ・年長児・・・演奏中や演奏を終え拍手をもらった時の気持ちを聞き、喜びや緊張感を共感し合う。

〈活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者とのかかわり〉

- ・合奏に向けて担当楽器を決め練習を進めた。自由遊びの時には好きな楽器に触れる環境を整え、担当楽器以外の楽器にも興味を持ち関心を深められるように配慮をした。
- ・練習を進める中で「難しい、できない」などの言葉が聞かれた時は、同じ担当楽器の友だちと上手くなる方法を考える等練習過程を大切にしました。

〈活動中の様子〉



5. 振り返り

〈振り返りによって得た保育士の気づき〉

・「楽器に触れ音を楽しむ」から、「皆で合奏をし演奏を楽しむ、又発表をする」までを子どもたちの意見を取り入れながら進めていった。それぞれ担当楽器のリズムや音を覚えるも、一緒のテンポで合わせる事が難しくなかなかなか揃わずにいた。「周りの音を聞く意識を持つ」ことに重点を置くと少しずつ音のまとまりが見られ、演奏が終わると「ふー」とゆっくりと息を吐く姿が見られるようになり、集中している様子が伝わってきた。

・発表当日は楽しむよりも緊張の方が優っていたが、曲が終わった後に沢山の拍手が鳴りそこで笑顔が見られた。観客の年少・年中児からは「かっこよかった！」「音がいっぱいあって楽しかった！面白かった！」「楽器をやってみたい！」という声上がり、音の楽しさを伝える事ができたと感じた。

・「周りの音を聞く意識を持つ」ことは、日常生活の中での周囲を良く見る、人の事を考えるに繋がる。音楽を通して人との関わりも大切にしてもらいたい。